

10.九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (九州)		観光名所（従業員）	・ゴールデンウィーク、夏休みと長期休暇が続くので、町内の宿泊施設はほとんど満室の所が多い。
		商店街（代表者）	・商店街の空き店舗も幾つか埋まる計画があり、やや景気は持ち直している。
		百貨店（営業担当）	・近隣の商業施設開店の影響も一部あるが、熊本地震後1年経過で紳士・婦人衣料の苦戦は緩和している。自分で楽しむ商品や自家需要商品、輸入雑貨売場の好調は続いている。買物の二極化と自家需要重視の慎重な傾向は継続する。
		百貨店（業務担当）	・前年は、震災の影響で買物そのものに対する意識がなかった時期で、その時期との対比はできないが、少し気持ちも上向きになっている客が多い。
		百貨店（経営企画担当）	・熊本地震の影響により購買意欲が低下していたこともあり、前年よりは持ち直した。4月末から5月のゴールデンウィークや母の日など、購買動機さえ取り込めれば回復基調を維持できる。
		百貨店（売場担当）	・売上は、前年の熊本地震でスーパーマーケットがかなり落ちていたが、今年はこれが落ち着き、大きく上向いていく状況が続く。気を付けないといけないのが天候要因で、影響は大きい。今月は前半の気温が2度以上低かったが、後半には上がった。流れるに婦人衣料の売上が大きいので、それらの弱さが落ち着いてくると全体的に底を上げてきて良い状況が続く。購買意欲はそれほど冷えていない。
		コンビニ（エリア担当・店長）	・前年比で数字的には悪いが、例年に比べると暖かくなるにつれて少しずつ売上も伸びており、来店客数も増えていく。
		家電量販店（店員）	・季節商材は気温が上がればやや良くなる。今冬が良くなかったのでその反動で今よりは良くなる。
		家電量販店（従業員）	・暑くなるにつれて冷房器具の需要が増える。
		家電量販店（広報・IR担当）	・季節商材の動きの本格化とボーナス商戦に入ることの影響がある。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・これから梅雨を迎えるが、この先夏の商戦もある。リキッドコーヒーが出るので来店客数も増えている。購入単価も上がっており、今後の売上も伸びていく。
		その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	・九州自動車道の熊本地震復旧工事が4月末で終わり、北部九州から鹿児島への帰省客、及び観光客の増加が見込めるため売上への貢献が見込める。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	・熊本地震の影響は8月位まではあったので、その間は改善される。また、外国人観光客も同様である。
		一般レストラン（経営者）	・予約状況も良く、飲料類の追加注文も多く、徐々に良くなっている。
		観光型ホテル（専務）	・団体客の予約が入っている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・外国人観光客を中心に購買意欲が旺盛である。
		旅行代理店（企画）	・最近の客の動向が、少し上向いてきた。
		タクシー運転手	・当地のタクシーについて、今のままの状況で行くと当面の堅調さは維持できる。
		通信会社（企画担当）	・数か月前から進めている現在の見込み客の受注がやや増加となる。
		通信会社（営業）	・3月に投入した新商品がこれまでよりも市場に広く浸透している。また、4月においては1か月の周知による成果も悪くなかった。稼働日の少ない5月もさることながら、6月には一層のキャンペーンと広告戦力を考えているため、良くなる。
	通信会社（営業担当）	・来年以降も続く話題があり、今後もその影響を受けて上向きになっていく。	
	商店街（代表者）	・日々の売上が良かったり悪かったりの連続である。客の様子を見ていると決して悪い方向に行くことはないが、低迷が続いている商況に歯止めをかけるには、タイムリーな販売促進をしていかなければならない。	
	商店街（代表者）	・熊本地震から1年が過ぎ、街全体の通行量は少し増加したが、小売店各店は売上が良かったという言葉は聞こえてこない。	
	商店街（代表者）	・天候にも少し左右される。飲食店が少しずつ多くなってきている商店街では、小売店が少しずつ冷え込んできている。小売店のオンリーワンをもっともっとアピールしていく必要がある。	

商店街（代表者）	・年金を受給している年配の客が多く、特別の収入がない客が多い。年金生活者の多くは生活が改善していない。
商店街（代表者）	・3～4月のしわ寄せがあり、またゴールデンウィークでかなりの出費があり家計が苦しくなる。
商店街（代表者）	・景気回復するための状況に変化はない。
商店街（代表者）	・景気が良くなる要因が全く見当たらないので、今の状況が続く。
一般小売店〔鮮魚〕（店員）	・魚が少しずつ増えてきた。魚価が安くなるのはうれしいが、それでもなかなか売れない。売れない理由をいくら探してもしょうがないので何とか売るようにしないといけないが、なかなか思いつかない。
一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・景気は良くなってきているとのことなので横ばい、又は上向きで推移する。夏場は毎年低迷するので、5月の新茶時期に売上を伸ばしていく。
百貨店（営業担当）	・新規競合店の影響はあるが、あまり変わらない。
百貨店（営業担当）	・先行きの不透明感が払拭しきれていないのが現実である。国際情勢、地政学上の問題もあるが、為替や株価に大きく影響を及ぼすもので、その辺の見極めが、客の消費に対する心理を悪化させている。この先はわからない。
百貨店（営業統括）	・購買意欲の増加につながる要素が少ない。
百貨店（店舗事業計画部）	・季節商材は従来以上に更に季節実感型の動きになっており、夏物は梅雨明けくらいまで鈍い。
スーパー（経営者）	・東京オリンピックへ向けての期待感がある。その前に不安定さが気になる。
スーパー（店長）	・生活者の生活向上が見られない。明るい話題に乏しい。
スーパー（店長）	・起爆剤がもうない。前年は熊本地震需要でギフトの売上もかなり伸び、競合店も2店舗営業していなかったが、復旧工事も終わり営業が再開されたので前年並みの数字を上げるのは大変厳しい状況で、前年比95%で推移する。熊本地震特需もなくなり大変厳しい状況になる。
スーパー（総務担当）	・競合店の出店が予定されており、客の争奪の厳しい競争環境はしばらく続く。
スーパー（経理担当）	・安価な商品、特売品などの動きが良いので、財布のひもは固くなっている。
コンビニ（経営者）	・客の購買姿勢は厳しい。明るく上昇する理由が見受けられない。
コンビニ（エリア担当）	・夏場の天候に大きく左右されるため、どのような動きになるのか見えない。高齢者の年金の収入減や景気の動向によって大きく動く。
コンビニ（店長）	・米国大統領就任100日、北朝鮮問題、フランスでの大統領選など、模様見の時期にきている。変わらないことに期待する。
衣料品専門店（店長）	・来街者少なく、たまに入店しても買う気が見られない。
衣料品専門店（店員）	・フリー客は買換え需要での単品買いがほとんどである。必要な物しか買わない傾向は続く。
衣料品専門店（総務担当）	・ここ1年、毎回同じような報告になっているが、これから先もこの状況が好転するという様相を見いだすことは残念ながらできない。
家電量販店（店員）	・良くなる様子も悪くなる様子も特にない。変わらない。
家電量販店（総務担当）	・猛暑が予想される夏商戦までは需要が見込めない。
乗用車販売店（総務担当）	・新型車が出そろっているので販売を伸ばす好機である。客の来店、在庫を促進して売上、利益の確保をしていく。
乗用車販売店（代表）	・変わらない。
その他専門店〔書籍〕（代表）	・デフレからの脱却は達成しておらず、むしろその傾向は強まっている。年金、増税など将来の不安を払拭しない限り回復は難しい。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・燃料油の仕入価格の今後の動向は予想しにくいところがあり、先を見通せない状況である。5月前半の連休において、自動車での県外からの客の需要に期待したい。
ドラッグストア（部長）	・北朝鮮情勢など不確定要素もあるが、当面は現在の状況が続くのではないかと考える。
その他専門店〔書籍〕（副店長）	・相変わらず、業界全体の縮小が止まらない。
その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・景気回復の判断材料が少ない。世の中のニュースは不安なものが多く、商圈内で景気回復を実感できるようになるまでは、まだまだ時間がかかる。
高級レストラン（経営者）	・ゴールデンウィーク明けの5月の予約状況をみると結構入っている。前年比で大分良い。ゴールデンウィーク明けに会社関係の予約があると5月の景気は良くなる。

	高級レストラン（支配人）	・ゴールデンウィークの予約問い合わせが少ない。
	都市型ホテル（販売担当）	・夏に向けて宴会利用数が減る傾向なので、あまり良くなりません。
	タクシー運転手	・景気を刺激するような大きな催しがないので代わり映えしない。
	タクシー運転手	・客によると、ゴールデンウィークでなかなか思うように動けず、また懐具合も悪そうで子どもを遊びにつれていくことができない。
	タクシー運転手	・今年は昼が暑くなりそうで、夜の方がタクシーの利用が増えてくる。
	ゴルフ場（従業員）	・来週から始まるゴールデンウィークも前年比15%減で、5～7月まで予約が完売していない状況である。雨になると更に落ち込む可能性もあり、イベントを仕掛けるタイミングが少し遅かったと思っている。これからまた企画を練って少しでも上げる努力をしていかなければ、厳しい状態である。
	競輪場（職員）	・売上に変化を生み出す要因が乏しい。
	競馬場（職員）	・現時点で傾向が変わりそうな要素が特段見当たらない。
	美容室（経営者）	・美容業界では景気回復というより客の伸びがないため現状維持が続く。あまり変わらないので景気対策を打たないといけない。
	美容室（店長）	・近くに大型店舗が開店して美容室も多くなったが客数に変化はない。
	その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・総合事業の順次移行による単価ダウンや、30年4月の介護報酬改定が減額の方向性に議論される中で、売上増や利益増が厳しくなる。
	設計事務所（所長）	・現状が良くも悪くもないので3か月先も今の状態が続く。
	設計事務所（代表）	・特に良くなる材料がない。
	住宅販売会社（従業員）	・景気の状態について、底上げをしている建設関係、IT関係の株価が上がっても、景気が良くなったという状況は見えてこない。また、朝鮮半島の政治動向が非常に緊迫化しているので、景気としてはあまり良くはならない。現状維持である。
	住宅販売会社（従業員）	・現在の来客数から受注の横ばいは続く。ゴールデンウィークにかけての来客数がその後の受注に左右してくる。
	一般小売店〔精肉〕（店員）	・商品の入荷制限が続けば、客が減る。
	スーパー（店長）	・今後も競合店の新たな出店や改装計画など、周りの環境が非常に厳しくなってくる。価格競争を含め、売上を確保することが難しくなる。
	衣料品専門店（店長）	・売る側の努力が足りないのか、物が売れにくくなっている。
	住関連専門店（経営者）	・大手宅配便の値上げの話があり、通販部門の売上への影響は避けられない。北朝鮮の動向も景気に影響を与え、良い方向には向かわない。
	都市型ホテル（副支配人）	・6～7月は大きな団体の予約もなく、予約状況としては前年比で少ない。
	旅行代理店（従業員）	・北朝鮮問題、欧州でのテロなどの影響で、渡航観光客に影響が出始めている。韓国とフランス大統領選挙の結果も影響してくる。
	通信会社（業務担当）	・今までの流れで行くと、今後も定期的に下がっていく。
	理容室（経営者）	・3～4月は卒業・入学でそこそこ良いが、来月、再来月は転勤・卒業で一度に客が減る。人口減少もあり、穴埋めもなかなか時間が掛かるので非常に厳しい。
	設計事務所（所長）	・世界の情勢が不透明で、株式市場などが情勢だけで変動しているのをみると、良くなりそうな要素がない。
×	商店街（代表者）	・ゴールデンウィーク直前で消費の渋りが発生し、ゴールデンウィーク後も日用品の消費だけで一般消費者、又は企業も買い渋りが出る。
×	一般小売店〔生花〕（経営者）	・熊本地震で店舗のビルが全壊し、取壊しの順番が回ってきて6月に解体になる。
×	乗用車販売店（販売担当）	・来客数が減少している。そもそも検討者数が減っており、数か月後の受注数も期待できない。
×	スナック（経営者）	・相変わらず法人客が減少している。会社単位のグループ利用が減っており経費節減が表れている。
企業動向関連	-	-
	繊維工業（営業担当）	・国内の工場が、まだまだ廃業や縮小するので、残った弊社はなんとかやれるだろうが、厳しい現状が続く。

(九州)	鉄鋼業（経営者）	・受注量の減少が続いている。荷動きはそこそこだが、新規物件を対象にした材料発注が前年同月比で非常に少ない。原料価格が下落しているため需要家が発注を遅らせており、需要の盛り上がりが見られない。
	一般機械器具製造業（経営者）	・今年度に入ってユーザーの年度計画が出されるが、今までに比べると動きが若干早くなるということでそれなりの回答を期待している。
	電気機械器具製造業（取締役）	・引き合いが途切れなく出ている。特に医療関連は応じる余力があればいくらでも出てくる。
	建設業（従業員）	・見積案件はさほどないが、その中から受注に結び付いて来期の繰越工事も確保でき、このままの状況だとやや景気は良くなる。
	建設業（社員）	・景気が良くなることと、発注の平準化を期待している。極力年度内の完成を目標にしたい。
	通信業（職員）	・第1四半期受注見込みの大型案件があり、今後も堅調に受注額が推移する。
	金融業（従業員）	・ボーナスへの期待感が若干あり、購買意欲がある程度見込まれる。経済活力がある。
	金融業（従業員）	・海外需要が旺盛な自動車関連企業中心に生産水準が高まってきているほか、公共工事の発注も増加傾向にある。また、企業の求人意欲は引き続き根強く、雇用者所得も持ち直してきているが、北朝鮮問題など国際情勢を懸念する先が増加してきている。
	金融業（調査担当）	・5月から乳製品などの一部の食料品が値上がるも、影響は限定的である。地政学リスク以外、景気悪化の影響は見られない。
	不動産業（従業員）	・宿泊施設の稼働率が好調に推移しており今後も継続する。
	農林水産業（経営者）	・5月については例年、行楽シーズンでもあり、スーパーマーケット、居酒屋は順調に推移する。6～7月は梅雨に入るため、消費は期待できない。ただ、冷凍食品メーカーについては冷凍プロイラー相場も高値で安定しており順調に推移するだろう。今年は国産志向の高まりもあり、梅雨明けの7月後半から8月は本格的な夏の到来で鶏の消費は大いに期待できる。
	農林水産業（従業者）	・成り疲れは当地でも発生しており、今シーズンは樹の老化が速いという話もよく聞く。樹の調整ができた農業者はしっかりと稼ぐことができるが、老化が速い農園では量が取れないため、稼ぐ機会を逃す可能性がある。
	農林水産業（営業）	・現行は良い動きであるが、輸入品の動きなどに影響される。
	家具製造業（従業員）	・5～7月までの家具物件の情報は、例年とあまり変わらない。しかしホテル家具の需要は全体的にまだまだ伸びそうな状況である。小売は4月度の新年度需要も一段落し、通常の月上と変わらない。
	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・継続契約の案件が主となり、新規案件の動きが鈍い。
	化学工業（総務担当）	・世界経済の先行きが不透明であり、予測がつかない。
	一般機械器具製造業（経営者）	・ゴールデンウィーク前の駆け込みで、今後いったん需要は落ちるものの、客からの声では、その後の景気には明るさもある。
	精密機械器具製造業（従業員）	・極端に受注量が下がる気配も無く、生産計画数値もあまり変わりなく、どちらとも言えない状況が続いている。
	輸送用機械器具製造業（営業担当）	・9月までの生産計画は安定している。上期は10月以降の増産計画に向けた能力増加の準備期間である。
	その他製造業（産業廃物処理業）	・現状生産量も変わらず、価格相場もどちらかといえば低い価格で推移しており、今後もまだまだ変わらない。
建設業（経営者）	・日本全体の景気からして3か月先までは十分に続く。	
輸送業（従業員）	・特に景気が良くなるという話を客から聞いたわけではないが、当地の港については、いろいろな荷物の引き合いがあり、客が増えていて、全体量では微増である。	
輸送業（従業員）	・2017年2月以降、好調が持続しており今後も売上前年比105%を維持する。	
輸送業（総務担当）	・大手運送業者の宅配料値上げの動きに代表されるように、各運送会社も値上げの方向で行動し始めている。運転手の労働環境改善は理解できるものの、そのしわ寄せがどこに影響するのか、注視していく。	
通信業（経理担当）	・当面のところ、需要に結び付くような要素がない。	
金融業（営業）	・製造業の受注は回復傾向にあり、悪くなるとは考えにくい。建設業も多くの受注を抱えている。	

	金融業（営業担当）	・全業種、特に中小企業は全般的に人手が不足、現在の労働者、従業員の給与水準を上げてその人員を確保しなければならない。また新たに増やす場合には更に好条件の給与待遇をしなくてはならないため、当面は変わらない。
	金融業（得意先担当）	・当面は現状が続く。特に抜本的な改善につながるようなことは見受けられない状況がしばらくは続く。取引先の状況を注視していきたい。
	広告代理店（従業員）	・2017年度最初の月だが新聞折込受注金額は前年同月比93%と相変わらず低迷している。新年度セールなどイベントの多い月だが活力が見られない。単に一般小売の購買力が低調、販売促進の経費の削減などでは済まされない、構造的なものがある。通信販売などのように店舗も広告費もかからない業態の拡大が、通常の販売促進活動を根本的に変えている。
	経営コンサルタント（社員）	・これから5月に向けて活動計画を練るが、あまり新鮮味がないのでさほど期待できない。
	経営コンサルタント（代表取締役）	・ホームページのアクセス数や問い合わせ件数から考えると、大きな変化が見られない。
	その他サービス業〔物品リース〕（支社長）	・前向きな受注の話が少ない。熊本地震の復興需要は徐々に取引先に好影響を与えている。逆に需要に乗れていない業種、会社は苦戦している。決算対策の節税商品が売れた。
	その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	・当面、市町村からの発注における他社の入札価格が50～60%で推移する。他社との競合では薄利で多くの仕事を受注しなければいけないが、限度があるため、受注が少ないまま推移することになる。景気の悪さが続く。
	食料品製造業（経営者）	・季節的に端境期となるため売上が減少する。
	窯業・土石製品製造業（経営者）	・北朝鮮問題も米国の大統領の問題も、どうなっているのか心配が先に立ち、消費に回る予算的なものがなかなかつかめない。早く世界的に落ち着いた世の中になってくれることを望む。
	金属製品製造業（事業統括）	・取引先の見込みでは今年は谷間に差し掛かり、例年以上に今後の案件の見込みが少ない。
	x	-
雇用関連		-
(九州)	人材派遣会社（社員）	・求職者が多く、現在は希望する事務職系の業務数が落ち着いているが、新年度の体制が落ち着くと、新規に発生した欠員補充など再び派遣社員での流れが出てくる。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・前年の熊本地震のような天災はやむを得ないが、東京オリンピックに向けて、外国人観光客の需要は増える。反面、人手不足が深刻になってきた。景気拡大には人手不足の解決が望まれる。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・観光関連業種も復旧・復興が進み、前年比でインフラも含め受け入れ態勢もずいぶん整ってきているため、観光客の増加が期待される。
	民間職業紹介機関（社員）	・年度末の契約終了が前年より少なく、契約継続案件が増加している。
	民間職業紹介機関（支店長）	・人手不足感の強い中小企業や建設業、福祉関連企業では、派遣労働者から直接雇用への動きが活発である。自社での採用に加え人材派遣会社への依頼も増加している。
	人材派遣会社（社員）	・4月で一服感があり、これからは、産前産後休業などの突発的要員での需要が増えてくる。
	人材派遣会社（社員）	・求人数、求職者数共に堅調なため景況感が数か月以内に悪化する見通しはない。働き方改革の法案の行方は業界自体の在り方を左右するため、国会の審議に注目している。
	人材派遣会社（社員）	・お中元の時期になり、既存の企業からも前年並みの依頼を受けている。また、新しく商業施設が市内や近郊に開店しており、慢性的に人手不足である。
	人材派遣会社（社員）	・人材確保のため、時給単価は高くするしかなく、利益が減る。
	求人情報誌製作会社（編集者）	・求人意欲は相変わらず高いが、一方では採用難で求人を取りやめる中小零細企業も増えている。
	新聞社〔求人広告〕（社員）	・特に大きな消費要因が思い当たらない。ボーナス時期に入るため景気が上向く。
	職業安定所（職員）	・管内事業所に直接訪問した際に、今後の見通しについて聴取したところ、ほとんどの産業で短期的には景気は変わらず、介護関係では、介護診療報酬の改定により景気が大きく変わるので注視しているとのことであった。
	職業安定所（職員）	・求人は増加したが、特に有資格者などの求人に応募する人材不足が著しい。物流に携わる運転手の高齢化もあり、若返りもできていないことから、今後、人材不足が景気の足を引っ張る可能性がある。

	職業安定所（職業紹介）	・今後も求人数の増加傾向と求職者の減少傾向は続き有効求人倍率は高い水準で推移する。
	学校〔大学〕（就職支援業務）	・求人票の受理件数は前年度と比較し、微増であるが、2018年3月卒学生への採用については、各企業共に意欲的に採用活動を行っている。その背景は、将来的な労働人口不足への対応なども考えられ、景気そのものと求人動きが直接関係があるとは明言できない。
	-	-
x	人材派遣会社（社員）	・労働者派遣法改正、労働契約法改正の影響が出る。